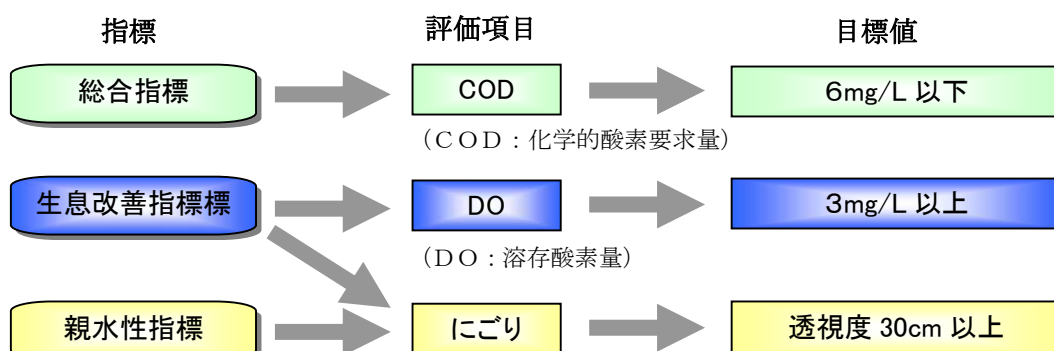


油ヶ淵 清流ルネッサンスⅡの進捗状況（2019年度）及びにぎり改善対策について

愛知県と油ヶ淵流域関係4市は「油ヶ淵水質浄化促進協議会※」において、清流ルネッサンスⅡ※（本計画）に定める油ヶ淵の水質浄化対策の進捗状況及び油ヶ淵の「にぎり改善対策」について、以下の事項を確認しました。

- (1) 2019年度速報では、CODの値は、長期的な改善傾向がみられるものの、7.2mg/L（COD75%値）となり、目標値6.0mg/L以下には達していない。DOの値は、6.5mg/Lとなり、目標値3mg/L以上を達成していたものの、透視度は、27.9cmとなり目標値30cm以上に達していない。（資料1）
- (2) 2020年度も引き続き、河川・湖内対策や下水道整備、下水道への接続促進や水環境に対する流域住民の保全意識の高揚などの水質浄化対策を、県、流域市と市民が一体となって実施する。（資料2）
- (3) 2020年度は、学識者から技術的な意見を聞く「油ヶ淵水質浄化対策フォローアップ委員会」において、これまでの本計画の実施効果の評価や「にぎり改善対策」とその対策がもたらすCOD改善効果等の水質浄化対策について引き続き検討を進める。また、「にぎり」などの水質の状況や改善対策について情報発信をしていく。（資料3）
- (4) 2019年度の進捗状況は資料4のとおりとなった。

※ 油ヶ淵水質浄化促進協議会（愛知県、碧南市、安城市、西尾市、高浜市）は、県内唯一の天然湖沼である油ヶ淵の水環境の改善を図るため、「第二期油ヶ淵水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンスⅡ）」を2004年度に策定、2011年度には改定し、総合的な対策を進めている。総合指標としてCODを、生物の生息改善指標としてDOを、親水性指標としてにぎりを設定し、それぞれ目標値を定めている。



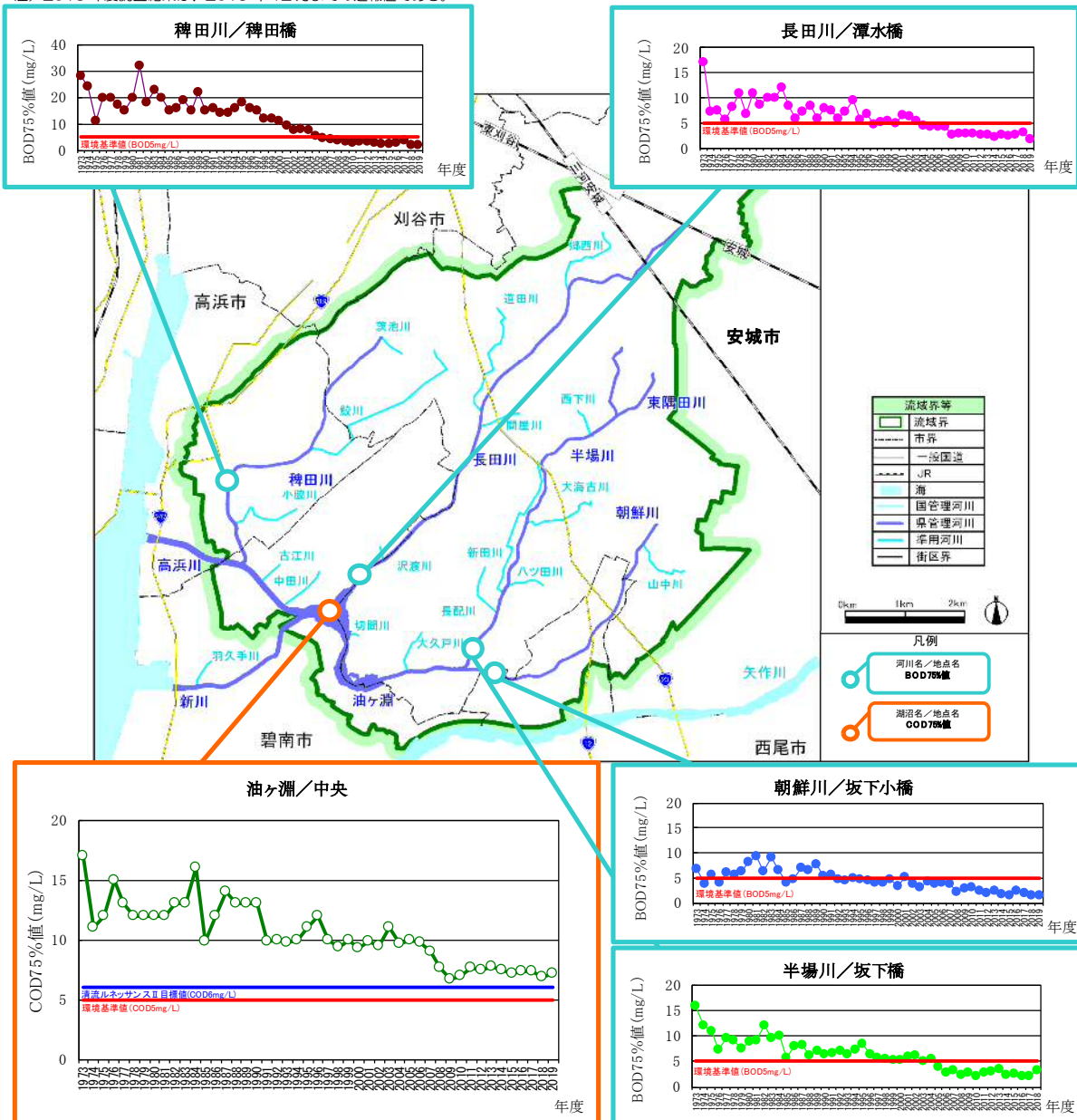
2019 年度の水質について

1. BOD、COD

- ・ 流入河川の水質は改善傾向にあり、近年、BOD75%値は環境基準を達成しています。
- ・ 油ヶ淵の水質は改善傾向にありますが、2019 年度の COD75%値(速報値)は 7.2mg/L で、目標値は達成していません。

水域名	地点名	環境基準値	清流ルネッサンスII 目標値	2019年度調査結果(速報値)			(参考)2018年度調査結果		
				75%水質値	環境基準適合状況	目標値の適合状況	75%水質値	環境基準適合状況	目標値の適合状況
油ヶ淵	中央	5mg/L (COD75%水質値)	6mg/L (COD75%水質値)	7.2mg/L	×	×	6.9mg/L	×	×
稗田川	稗田橋	5mg/L (BOD75%水質値)	-	2.0mg/L	○	-	2.1mg/L	○	-
長田川	潭水橋			1.8mg/L	○		3.1mg/L	○	
半場川	坂下橋			1.9mg/L	○		3.2mg/L	○	
朝鮮川	坂下小橋			1.4mg/L	○		1.4mg/L	○	

注) 2019 年度調査結果は、2019 年 12 月までの速報値である。

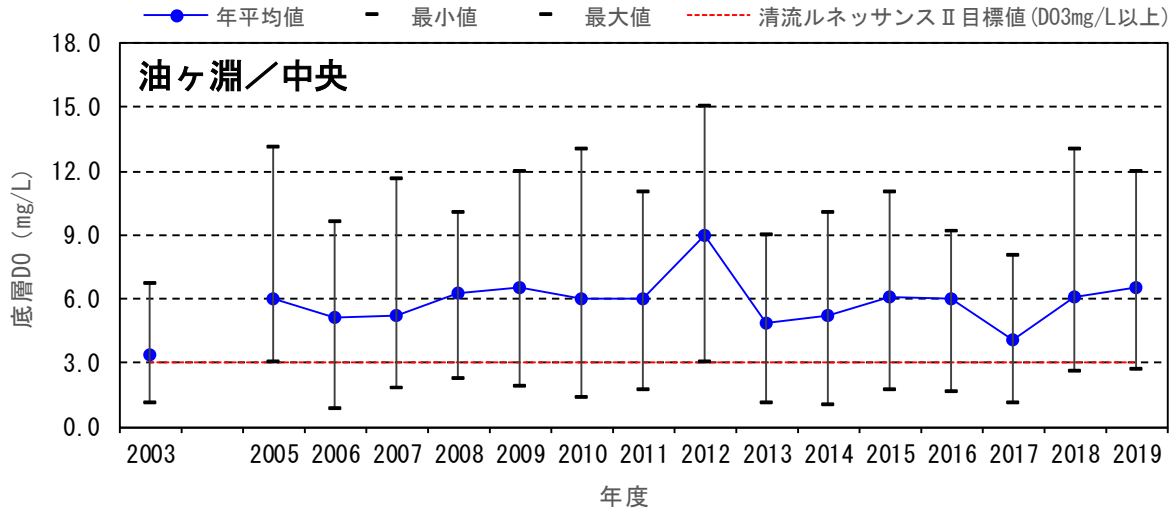


2. 底層 DO

- 底層 DO は 2003 年度に比べると改善傾向にあるが、近年は横ばいである。
- 2019 年度の底層 DO 3mg/L 以上の目標達成率(速報値)は 78%である。

水域名	地点名	環境基準値	清流ルネッサンスII 目標値	2019年度調査結果(速報値)			(参考)2018年度調査結果		
				目 標 達成回数	目 標 達成率	目標値の 適合状況	目 標 達成回数	目 標 達成率	目標値の 適合状況
油ヶ淵	中央	—	底層DO 3mg/L以上	7/9回	78%	×	10/12回	83%	×

注) 2019 年度調査結果は、2019 年 12 月までの速報値である。

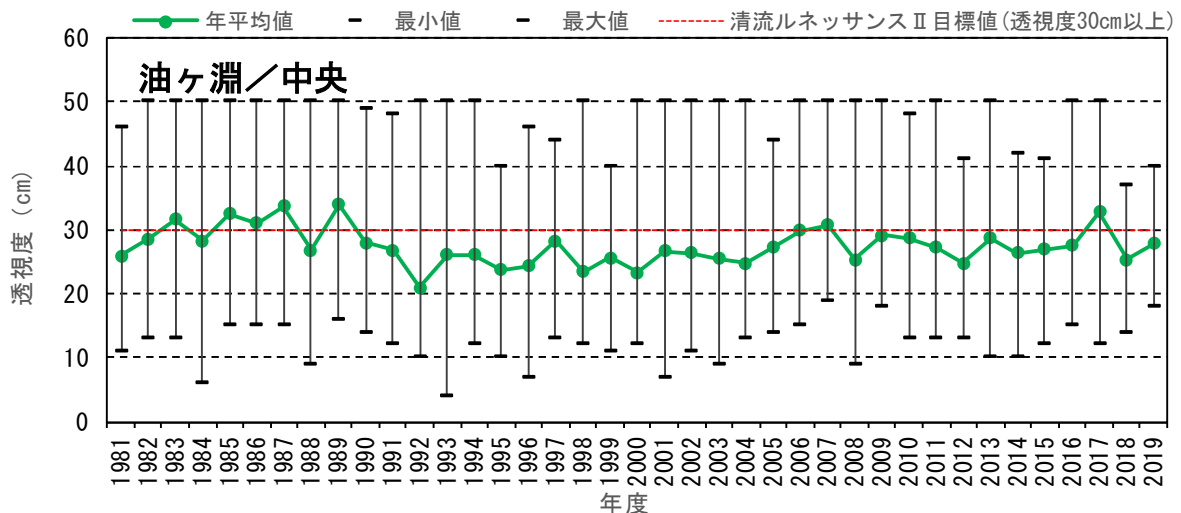


3. 透視度

- 透視度は顕著な改善傾向はみられていない。
- 2019 年度の透視度 30cm 以上の目標達成率(速報値)は 35%である。

水域名	地点名	環境基準値	清流ルネッサンスII 目標値	2019年度調査結果(速報値)			(参考)2018年度調査結果		
				目 標 達成回数	目 標 達成率	目標値の 適合状況	目 標 達成回数	目 標 達成率	目標値の 適合状況
油ヶ淵	中央	—	透視度 30cm以上	6/17回	35%	×	9/24回	38%	×

注) 2019 年度調査結果は、2019 年 12 月までの速報値である。



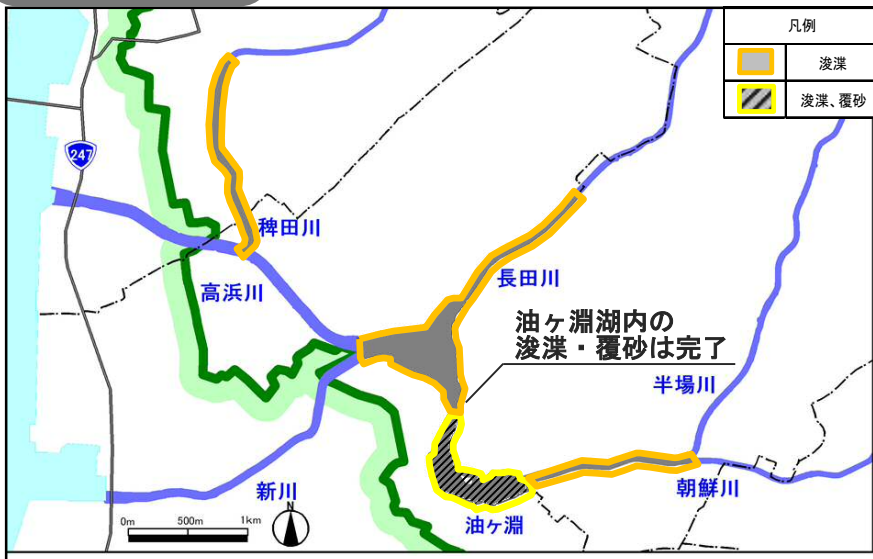
2019 年度の主な水質浄化対策

(1) 河川・湖内対策

家庭などから排出された汚濁物質は、ヘドロ生成の原因となり、河床や湖底に堆積したヘドロからは富栄養化の要因である窒素やリンが溶出します。

これらの対策として、これまで河川水質の直接浄化施設の建設や、湖内の浚渫や覆砂を実施しました。現在は、植生浄化としてヨシの生えやすい基盤整備を実施中で、2020 年度は引き続きこの基盤整備を実施します。

浚渫と覆砂

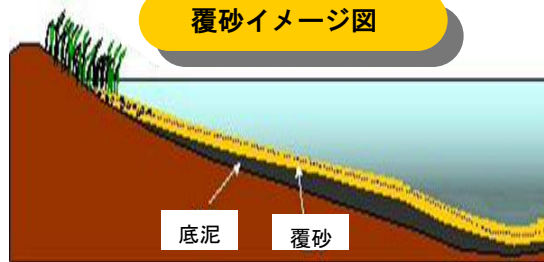


浚渫施工状況 (完了)

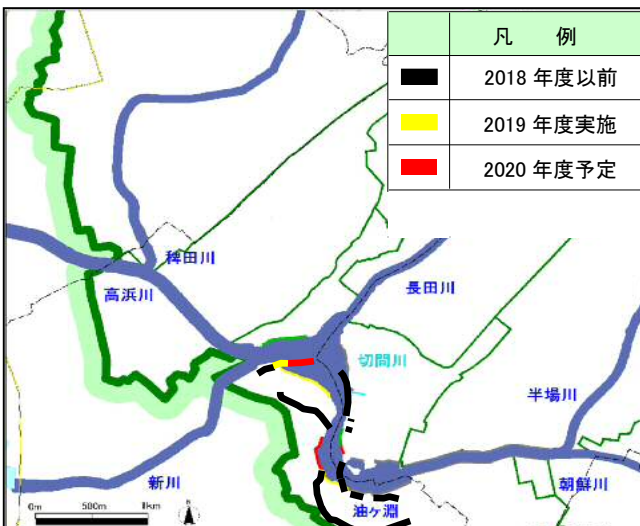


覆砂施工状況 (完了)

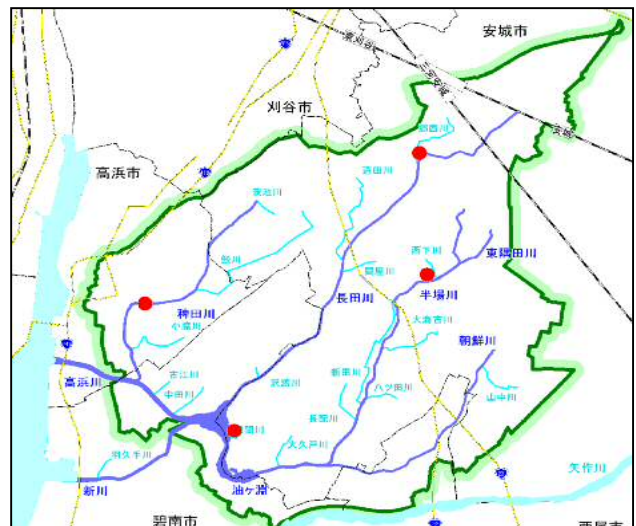
覆砂イメージ図



植生浄化

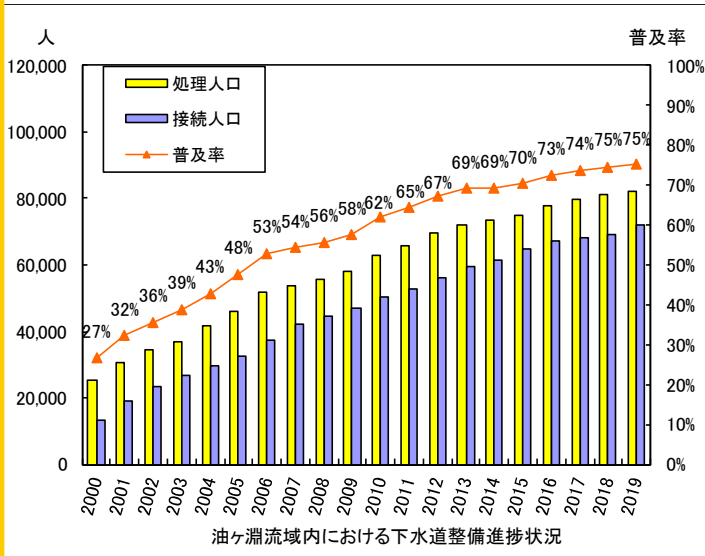


直接浄化施設



(2) 下水道整備

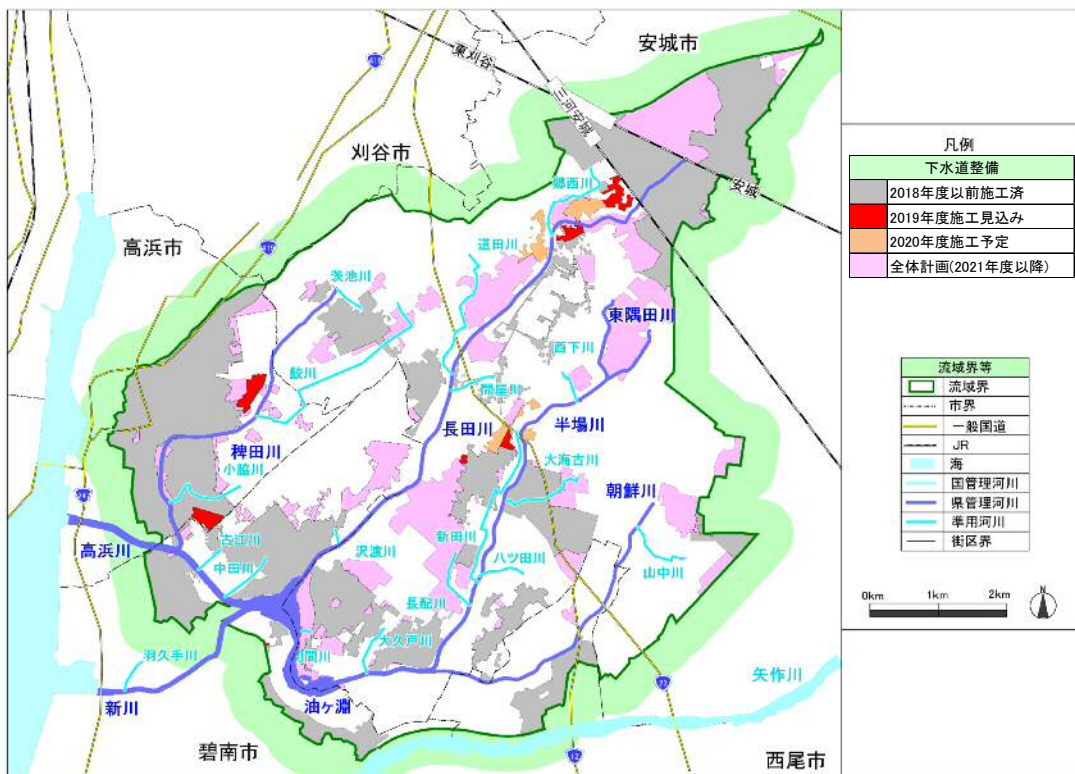
下水道整備進捗状況



- 下水道整備による水質改善は、各家庭から下水道管へ接続することで効果が出ます。よって、下水道の普及率とともに、接続率の向上が重要です。
- 本計画の2020年度(目標年度)における下水道整備の目標値は、普及率74%、接続率82%であるのに対し、2019年度(見込み)は**普及率75%、接続率87%**でした。

注 普及率＝処理人口／油ヶ淵流域内人口
 接続率＝接続人口／処理人口
 下水道整備済区域内人口＝処理人口

下水道整備区域



にごり改善対策について

清流ルネッサンスⅡ（水環境改善緊急行動計画）で目標値を設定している水質項目のうち、目標を達成することが多いDO（溶存酸素量）に比べ、CODは長期的には改善傾向が見られるが近年は横ばいの状態、「にごり」については目標値を下回る頻度が高く改善傾向も見られません。

このため、2017年度より、学識者から技術的な意見を聞く「油ヶ淵水質浄化対策フォローアップ委員会」を開催し、清流ルネッサンスⅡの実施効果の評価検討と、「にごり」の実態把握や発生原因の究明、対策の方向性の検討を行っています。

2019年度は「にごり」を発生させない稲作方法（V溝直播栽培）の推進、普及啓発、巡回指導を行うとともに、湖内の「にごり」について上流からの「きれいな水」と湖内の「にごり水」との水交換を促進する、高浜川水門開門の実証試験を行いました。

さらに「にごり」などの水質状況について「アクション油ヶ淵」で情報発信を行うなどハード対策、ソフト対策の両面で油ヶ淵の水質浄化に取り組んでいます。

2020年度は引き続き「にごり改善対策」等について、学識者による委員会で技術的な助言を受けながら、協議会として対策の検討・実施を進めていきます。また、「にごり」などの水質状況や改善対策について、引き続き情報発信をしていきます。

1. 油ヶ淵水質浄化対策フォローアップ委員会の開催状況等

○開催状況

第1回：2017年6月12日	}	2017年度
第2回：2017年12月18日		
第3回：2018年9月11日	}	2018年度
第4回：2019年2月21日		
第5回：2019年12月23日	}	2019年度

○2019年度の委員会における検討内容

- ・これまでの対策の効果検証
- ・にごり改善（高浜川水門開門）の実証試験

2. 2020年度のにごり対策

- V溝直播栽培の推進、普及啓発活動、巡回指導
- 高浜川水門の年間を通じた試験運用

油ヶ淵清流ルネッサンスⅡの進捗状況の概要（2019年度）

水質改善 対策	目的	計画概要(計画期間:2004年度～2020年度)		2019年度実績
		項目	2020年度 目標値	
河川・湖内 対策	富栄養化の要因である ヘドロの除去と窒素・リン の溶出抑制	河床浚渫	4.2万 m ³ (累計)	－ (累計: 3.7万 m ³)
		湖内覆砂	13.2万 m ³ (累計)	2012年度までに完了
	流入河川、湖の多自然化 (植生)による浄化の回復	植生浄化	9km	0.1km ^{※2} (累計:5.1km)
下水道整備	水質汚濁の主な原因で ある生活排水による汚濁 物質の流出削減	下水道普及率	74%	75% ^{※2}
		接続率	82%	87% ^{※2}
農業集落 排水		接続率	100%	98% ^{※2}
合併処理 浄化槽整備		合併処理浄化槽人口	13,854人	9,607人 ^{※2}
市街地対策	降雨時の市街地から流出 する汚濁物質や農地から 流出する窒素・リンの軽減	浄化槽の雨水貯留タンク転用	190基(累計) ^{※1}	4基(累計:68基) ^{※2}
農地対策		側条施肥	西尾市:65%	70% ^{※2}
			その他3市:85%	85% ^{※2}
畜産対策	畜産排水の水質改善	巡回指導件数	実施	7件(延べ) ^{※2}
産業排水 対策	工場排水の水質改善	立入検査数		39件
その他 (啓発活動等)	水環境に対する保全意識 の高揚	一斉清掃参加者数		4,087人
		水環境モニタリング地点		72地点

※1 浄化槽の雨水貯留タンク転用の目標基数は2001年～2020年の累計

※2 本日時点の見込み値